

日本語教員養成コース

日本語教員養成コースについて

日本語教員養成コースとは、外国人に対して日本語を教える教員になるために必要な特別の教育を行うもので、このコースを履修して所定の授業科目および単位を修得した者には、卒業時に本学から「日本語教員養成コース修了証明書」が発行されます。

1985年に、文部省の日本語教育施策の推進に関する調査研究会は、その報告「日本語教員の養成等について」において、日本語教員養成のための標準的な教育内容を示しました。これに準拠して、本学部の日本語教員養成課程は1994年度に開設されました。その後2000年に、文化庁の日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が、「日本語教育のための教員養成について」を取りまとめ、日本語教員養成において必要とされる教育内容を提示したため、本学部では2004年度入学生以降カリキュラムを変更するなどの見直しを行いました。さらに2018年、文化庁は文化審議会国語分科会における検討結果を「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」として取りまとめました。これは、多様な背景を持つ外国人の受入れが進むとともに、海外における日本語学習ニーズも高いことから、各分野における日本語教育の必要性が高まっている現状を踏まえ、日本語教育人材の養成における教育内容等について新たな指針を示すものです。また2019年度には「日本語教育の推進に関する法律」が公布、施行されました。本学部は2020年度より、日本語教員養成課程を拡充して日本語教員養成コースとし、文化庁の新指針に準拠したカリキュラムを整備しました。

文学部としては、このコース教育を通じて、優秀な日本語教員を養成し、国際理解の促進に貢献したいと考えています。

履修手続き等について

日本語教員養成コースを履修するには、各年次で以下の手続きを行う必要があります。すべての連絡や注意は掲示で行いますので、常に掲示を見るように心掛けてください。

■ 履修ガイダンス

年度始めに実施するガイダンスで、以下の点について説明します。

- ・日本語教員養成コースの概略、履修方法、コース登録等について
- ・日本語教育の現状について
- ・「日本語教育実習」の履修について

ガイダンスの対象者は、コース登録を考えている人、および、すでにコース登録をしている人で「日本語教育実習」を未修得の人です。詳細については、年度始め行事日程で確認してください。

■ 履修登録

コース登録を考えている人、すでにコース登録をしている人は、「日本語教員養成コース 授業科目表」に定める、科目区分ごとの修得単位数を満たすように、コースの授業科目を履修していただきます。特に4年次生は、不足単位を確認し、履修するようにしてください。

日本語教員養成コースの授業科目は、必修科目であっても、配当タームでの履修が必須ではなく、配当タームより後での履修も可能です。とはいえ、3年次配当の「日本語教育実習」を、多くの人は3年次で履修します。その場合、2年次終了までに、後述の「日本語教育実習 履修の前提条件」を満たさなくてはなりません。そのことを念頭において、コースの授業科目の履修を進めてください。

日本語教員養成コースのカリキュラムにおいて基幹となるのは、自由設計科目の「日本語教員養成コース開設科目」です。この科目区分に属する科目を積極的に履修することを推奨します。

■ 日本語教員養成コース登録

日本語教員養成コースを正式に履修する場合、原則として2年次の始めに日本語教員養成コース登録を行ってください。ただし、「日本語教員養成コース 授業科目表」に定める授業科目の履修は、一部の科目を除き、コースの登録前に行うことができます。

日本語教員養成コースを登録する人は、所定の期間内に証明書自動発行機で、日本語教員養成コース履修費1万円の申請書を購入し、教務部窓口へ提出してください。履修費の納入、申請書の提出をもって、「日本語教員養成コース登録」とします。履修費の納入や申請書の提出がない場合、日本語教員養成コースの履修は認めません。なお履修費は、毎年度納入する必要はなく、コース登録をする年度の始めに1度だけ納入してください。ただし、途中でコースの履修を中止しても返金はされません。

■ 日本語教育実習 履修の前提条件

3年次配当の「日本語教育実習」を履修するには、以下の2点をともに満たしている必要があります。

①前年度終了までに、「日本語教員養成コース 授業科目表」の中から、次の表に掲げる各区分の科目の単位を修得していること。

科目区分名	修得科目・単位数	
必修科目	2科目4単位以上	11科目 22単位以上
選択必修科目		
選択科目		

②前年度までに日本語教員養成コースの登録を済ませていること。(コース登録と実習登録は同年度にできません。)

■ 日本語教育実習 履修登録方法

「日本語教育実習」は、複数クラスを設定して授業を行います。クラスは、予備登録を行い、調整のうえ決定します。予備登録期間や発表方法などについては、年度始め行事日程で確認してください。

「日本語教育実習」の履修が決定した人は、所定の期間内に証明書自動発行機で、日本語教育実習費5千円の申請書を購入し、教務部窓口へ提出してください。期限までに実習費の納入や申請書の提出がない場合、「日本語教育実習」の履修は認めません。

■ 日本語教員養成コース修了証明書の発行

「日本語教員養成コース修了証明書」は、卒業時に所定の授業科目および単位を修得した人について、本人の申請に基づき発行します。

日本語教員養成コース 授業科目表

【2020年度以降入学生】

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位	備考	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8			
必修科目	言語と教育	日本語教育概論② 日本語教育方法論②								7	「日本語教育実習」を履修するには前提条件があります。詳細は、前掲の「日本語教育実習 履修の前提条件」を確認してください。
		日本語教授法②									
						日本語教育実習①					
必修科目 合計									7単位		
選択必修科目	言語と教育	日本語教育理解と実践②								4以上	
		日本語教育演習②									
	社会・文化・地域	日本語教育事情②									
	言語と心理	日本語の学習と習得②									
選択科目	言語と教育	コミュニケーション論入門② 成蹊グローバルセミナーA② 成蹊グローバルセミナーB②									「日本語教育実習」を履修するには前提条件があります。詳細は、前掲の「日本語教育実習 履修の前提条件」を確認してください。
						特別支援教育概論② Cross Cultural Communication Skills②					
						英語圏文化 322 (コミュニケーション) ②					
	社会・文化・地域	漢文基礎② 比較文学A② 比較文学B② 日本の歴史と文化A② 国際関係論入門②								2以上	
		日本の歴史と文化B② 国際文化論②									
	言語と心理	戦後の日本と世界② 国際文化交流論②								2以上	
		グローバリゼーションの社会学② Current Topics in World Affairs②									
	言語と社会	教育心理学② 心理学の基礎② 社会心理学入門② 自己理解の心理学② 社会心理学②								2以上	
						こころの健康と臨床②					
		言語学講義(言語と社会)② 文化人類学入門Ⅰ② 民族文化論② 教育社会学②									
言語学	文化人類学入門Ⅱ② 世界の言語文化②								2以上		
	社会言語学 316②										
	英語圏文化 422 (複言語・複文化主義) ②										
言語研究	言語の構造② 対照言語学②								8以上		
					英語学入門 210②						
	日本語研究の基礎② 日本語の歴史A② 日本語の歴史B②										
	日本語表現講義② 実践漢字講座② 日本語法②										
英語研究	日本語学講義A② 日本語学講義B②										
	日本語学講義C② 日本語学講義D② 日本語表現の特質②										
				英語音声学 311② 対人関係の言語学 315②							
				音声分析 411② 英文法 414②							
選択必修科目・選択科目 合計									26単位以上		
必要単位数									33単位以上		

- ※「日本語学講義A～D」は重複履修（同一科目を複数回履修すること）が可能です。
- ※「文化人類学入門Ⅰ・Ⅱ」は、Ⅰ→Ⅱの順で、Ⅰ・Ⅱを両方とも履修することを推奨します。
- ※「音声分析 411」は、「英語音声学 311」の単位を修得したうえで履修することを推奨します。